

三事研広報 NO. 6

三重県公立小中学校事務研究会

平成 22 年 3 月 19 日

発行者 河村 尚紀

編集責任者 山中 祐樹



月日が経つのは早いもので今年度最後の広報となりました。今年度も事務研究会の活動にご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。活動アンケート等でいただきましたご意見を真摯に受け止め、来年度の広報の作成に生かし、情報の発信に努めていきたいと思っております。1年間お付き合いいただきありがとうございました。

先月、東京で行われた全事研セミナーに参加された会員さんからレポートをいただきましたのでご紹介します。
また 3/12(金) 最後の役員・委員会にて21年度の総括を行いました。
三事研各部、特別委員会より今年度の活動まとめをご報告させていただきます。

平成21年度 全事研セミナーに参加して

鈴鹿市立明生小学校 谷口 由美

2月26日、文京シビックホールにてセミナーを受講した。

午前の部では、文部科学省行政説明「学習指導の改訂とこれからの教育」講義 新しい指導要領はどういう視点に立ってつくられているか、基本的な考え方「生きる力」①知識・技能を身につけそれをさらに活用する力②豊かな心、自律・協調性③健康と体力 どれか1つを選択するのではなく、バランスよく指導することの大切さ等について説明があった。平成23年度に全面実施になる内容、評価についても何が変わったのかわかりやすく話していただいた。

午後の部では、最初に全事研研究活動報告(学校財務ウィークの取組み、事務長制について)・パネルディスカッション「学校と地域社会のパートナーシップ」が開催された。保護者、地域住民の立場として見た学校というものの感想や、事務職員に期待することについての話が出された。子どもがつなぐ学校と地域について、事務職員には限られた予算の中で対費用効果等を考えることができる強みがある、もっと事務からのメッセージを発信しても良いのでは等、外部からの意見は新たな発見となるものがあった。

午後の部最後に講義「学校間地域連携のあり方と学校事務職員の役割について」なぜ今連携が必要とされているのか？学校と家庭の連携(家庭支援)がなければ子どもの状況を改善できないという認識の広まり、小1プロブレム中1ギャップという言葉に示されるように校種間段差が存在し、その解消として学校間連携の必要性がある、という内容であった。その上で学校事務の共同実施と複数校をつなぐ学校間地域間連携の推進の意味、新たな職務開発について、ゴールイメージを見通した300m先が見える事務職員になろう(学校がどう動いていくのが常に意識すること)という意見が出されていた。全体を通して、子どもにどのような力をつけたいのか全員が共有できている、という話がとても印象にのこった。

子どもたちが学ぶ環境づくりについて、事務職員としての自分が立つ位置を再確認しなければならないと感じると共に、新たな一歩を踏み出すきっかけになるような講義であった。

研究部より

今年は、「私たちは本来の力を発揮できているか」と題して第6期中期研修計画の1年目の研究をスタートしました。研修講座でエピソードをもとにグループ討議を行ったり、夏季セミナーでは役員が寸劇で事例を示して話し合いのきっかけにしたり、会員の皆さんに自らの言葉で語ってもらう場を設定しました。

教育活動に果たす学校事務の役割を研究し、教育活動の活性化のために私たち事務職員はどんな学校事務と事務職員をめざすのかを、「教育活動活性化計画(仮称)」のなかで示していきたいと思えます。

今年の事業は、沓張先生の学校経営と学校組織協働の実践的な講演、木岡先生の学校事務機能論とキャリア開発理論、西川先生の地域連携に果たす学校事務の役割と共同実施、各先生の講演に加えて、研究部の企画提案へ織田先生のアドバイスをいただきながら研究を進めてきました。

三重県は県内全域で共同実施の規定と標準的職務通知という環境が整っています。これを活かしてできることはたくさんあるのではないのでしょうか。私たち自身が「本来の力」の意味を発掘し、認識し、活用することで、もっと楽しい学校事務がつかめそうな気がしませんか。

来年も会員の皆様とともに、Let's Challenge♪



研修部より

今年度から、第6期研修計画が始動しました。

研修主題の「教育活動の活性化に向けた学校事務」の達成に向け、事務職員のキャリア開発、教育改革の動向を見据えた事務職員の役割、学校内外における連携協力と組織作りといったことを中心に資質向上のための研修講座を開催しました。

また、今年度の県大会は東海事務研松阪大会と兼ねていたため、全面的に松阪大会実行委員会にお世話をしていただき成功を収めました。

次年度からも、これまでにいただいたアンケートのご意見・ご指摘を十分検討させていただいて、会員の皆さんが是非足を運びたいと思われるような研修講座を開催していきたいと思えます。

1年間、本当にありがとうございました。



情報部より

情報部では、「各種調査」「事務の手引」「ホームページ」「三事研広報」「ひろば」を中心にして活動を行いました。

先日の活動アンケートで、情報部の活動に関わって会員の皆様からたくさんのご意見・ご感想等をいただきありがとうございました。

「事務の手引」については、「何か疑問に思った時には、まずは困ったときの事務の手引」との声や、「ホームページ」については、「支部委員さんからの連絡があって、今までよりもHPを見る機会が増えました」という声、「三事研広報」については、「研修講座に参加できなくても広報で活動の情報を得ることができました」という声、「ひろば」については、「採用の時から全部残っており、毎年読むのを楽しみにしています」という声などなど、たくさんのお声をいただきました。

活動アンケートでいただいた貴重なお声は、これからの情報部の活動へ活かしていきたいと思えます。

1年間、支部委員さんをはじめ、会員のみなさまのサポートをいただき本当にありがとうございました。

特別委員会より

会長より特別委員会設置及び委員の委嘱を受け活動を始め、2年目になりました。

昨年度は「中期研修計画立案」を最優先に進めてきましたが、今年度は50周年記念実行委員会を立ち上げ、50周年記念事業の企画・立案に取り組んでいます。

開催は平成23年度を予定しており、OB役員の方の参加を含め盛大に開催できるよう検討しております。皆様の参加をよろしくお願ひしたいと思います。また、教育活性化計画について研究部で検討され、特別委員会に諮問されたものについて、意見をだしています。

今後は、三事研のあり方についても(研究会のあり方・研修のあり方・理事 支部委員などの体制づくりについて)継続して検証していきます。



支部自慢

松阪支部

2月5日の松阪大会にはたくさんの方に参加いただきありがとうございました。またいろいろとご無理をお願いしたにもかかわらず、快く引き受けていただいた皆様、本当にありがとうございました。

さて支部自慢ですが、何とんでも「チームワークの良さ」です。今回の大会を運営するにあたり、更に会員同士の絆も深まり、もっとも仲良くなることができました。また普段では知ることのなかったそれぞれの良さも確認しあうことができたのではないかと思います。

これからもこの「チームワークの良さ」を活かしていくことができたらと思っています。

当日はゆっくりとしていただく時間もなかったのではないのでしょうか。今度はぜひプライベートでもお越しいただき、豊かな自然や歴史、そして何より山の幸海の幸、松阪牛をご堪能ください。

亀山支部

亀山支部は平成17年1月に関町と旧亀山市が合併してできた新亀山市の一つの市でできた支部です。鈴鹿市、津市、伊賀市、滋賀県に接しており、JR 関西本線が通り紀勢線への分岐点です。国道一号線はほぼ東西につらぬいており、北からは東名阪自動車道、南へは伊勢自動車道、西へは西名阪国道、又平成20年春には第二名神高速道路ができるなど交通の要衝です。国道一号線は昔の東海道路にほぼ沿ってできており、東海道路には亀山宿、関宿、坂下宿と江戸期には三つの宿場が置かれていました。今、関宿跡は観光客が訪れるようになりました。亀山宿は城下町で、亀山城が在りました。その亀山城には多聞櫓と言う城跡が残っています。

多聞櫓の横に亀山中学校があり、そこで亀山市内の事務職員15名が集まり共同実施を行っています。共同実施は試行を始めてから7年が経ち、現在亀山中学校でほぼ火曜日を全員が集まる日とし、他の曜日は3名から5名が詰め毎日稼働しています。

今年度末退職される会員の皆様へ

5月ごろ、来年度発行する「ひろば」の原稿依頼を行いたいと思います。4月からの連絡先(お名前・ご住所)を情報部までEメールでお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先:hiroba@miejiken.sakura.ne.jp

お知らせ

平成22年度総会 及び 第1回研修講座

期 日 平成22年 5月14日 (金) 午後開催

場 所 三重県男女共同参画センター 多目的ホール

